

発行所
〒102-0093
東京都千代田区平河町2丁目9番2号
日刊警察新聞社
電話 03(3239)8291(代)
03(3239)8321(編集)
https://www.nikkankeisatsu.co.jp
info@nikkankeisatsu.co.jp(総合受付)
henshu@nikkankeisatsu.co.jp(投稿)
日刊(土曜・日曜・祝日休刊)
©日刊警察新聞社 2020



無・題・録
交通事故死者の6割近くを占める高齢者。秋の全国交通安全運動の実施結果
死者数は秋の運動期間中では最少になるも65歳以上の高齢死者は増加傾向に。
全国の警察では引き続き交通ルールの遵守を指導。1件でも事故を減少させる。

の故 中事 期間 交通

死者は87人で過去最少

秋の全国交通安全運動の結果

警察庁は、このほど、令和2年秋の全国交通安全運動期間中(9月21日～30日までの10日間)の「交通事故発生状況」をまとめた。期間中の全国の交通事故死者数は87人で、昨年と同運動期間中と比べ2人減少。秋の全国交通安全運動期間中の死者数としては最少となった。また、発生件数、負傷者数も昨年の同運動期間中と比べそれぞれ減少した。

《発生状況》

令和2年秋の全国交通安全運動は9月21日(月)から30日(水)までの10日間、▽子供を始めとする歩行者の安全と自転車の安全利用の確保▽高齢運転者等の安全運転の励行▽夕暮れ時と夜間の交通事故防止と飲酒運転等の危険運転の防止――を全国重点にするとともに、必要に応じて地域の交通事故実態等に即した重点を定めて実施された。

交通事故死傷者は減少

警察庁は、今年9月末現在の「全国の交通事故死者発生状況」をまとめた。
9月中の交通事故発生件数(速報値)は2万5250件、死者数は243人、負傷者数(速報値)は3万1811人だった。
昨年同月と比べると、発生件数は4752件(15.8%)減、死者数は50人(17.1%)減、負傷者数は6322人(17.3%)減少した。
1月～9月末までの交通事故発生件数(速報値)は22万3811件、死者数は1988人、負傷者数(速報値)は26万3687人。
昨年同月と比べると、発生件数は5万9060件(21.1%)減、死者数は

(%)で最も多く、以下、歩行中の26人(同29.9%)、二輪車乗車中の16人(同18.4%)、自転車乗車中の10人(同11.5%)となっている。
二輪車乗車中の内訳は自動車二輪車乗車中が11人(同12.6%)、原付自転車乗車中が5人(同5.7%)。昨年同月間と比べると、自動車乗車中は8人(29.6%)増、二輪車乗車中は6人(27.3%)減で、うち自動車二輪車乗車中は6人(35.3%)減、原付自転車乗車中は増減ゼロ。自転車乗車中は増減ゼロ、歩行中は4人(13.3%)減で、自動車乗車中が増加した。
年齢層別・状態別にみると、自動車乗車中の死者(死者35人)では65歳以上が20人、25～64歳が11人、16～24歳が4人の順に多い。
二輪車乗車中(死者16人)では25～64歳が9人、16～24歳が7人。
自転車乗車中(死者10人)では65歳以上が7人、25～64歳が3人。
歩行中(死者26人)では65歳以上が22人、25～64歳が4人だった。
死者数を昼夜別・状態別にみると、昼が51人、夜が36人となっている。
昼の内訳は、自動車乗車中が20人で最も多く、以下、歩行中が16人、自転車乗用中が8人、二輪車乗車中が7人だった。
夜の内訳は、自動車乗車中が15人、歩行中が10人、二輪車乗車中が9人、自転車乗用中が2人の順に多かった。
自動車乗車中の死者(35人)のうち、シートベルト着用有無をみると、着用が17人、非着用が18人。
昨年同月間と比べ、着用

230人(10.4%)減、負傷者数は7万6025人(22.4%)減少した。
9月末までの高齢者の死者数(速報値)は1098人で、昨年同月と比べると103人(8.6%)減少したほか、飲酒死亡事故(速報値)は107件で、昨年同月と比べ22件(17.1%)減少している。
交通死者数が昨年同月に比べ増加しているのは13人)では25～64歳が9人、16～24歳が7人。
自転車乗用中(死者10人)では65歳以上が7人、25～64歳が3人。
歩行中(死者26人)では65歳以上が22人、25～64歳が4人だった。
死者数を昼夜別・状態別にみると、昼が51人、夜が36人となっている。
昼の内訳は、自動車乗車中が20人で最も多く、以下、歩行中が16人、自転車乗用中が8人、二輪車乗車中が7人だった。
夜の内訳は、自動車乗車中が15人、歩行中が10人、二輪車乗車中が9人、自転車乗用中が2人の順に多かった。
自動車乗車中の死者(35人)のうち、シートベルト着用有無をみると、着用が17人、非着用が18人。
昨年同月間と比べ、着用

累計死者数の増加数の大きい都道府県は、石川の17人増、東京、静岡の各12人増、愛知の8人増、神奈川の7人増などだった。
減少数の大きいのは、岐阜の32人減、千葉の25人減、兵庫の24人減、茨城の22人減、栃木の21人減などとなっている。
日別死者数では、最も多かったのは29日(火)の13人だった。
死者数がゼロだった都道府県は、山形、茨城、富山、石川、福井、佐賀、大分、宮崎、鹿児島のみ。
飲酒運転による交通事故の発生件数は45件(うち死亡事故4件)で、昨年同月間と比べると、発生件数は56件減少、死亡事故も1件減少した。
75歳以上高齢運転者の死亡事故発生件数は12件で、昨年同月間と比べると5件増加している。
また、期間中の高速道路における交通死亡事故の発生状況をみると、高速国道が2件、2人、指定自動車専用道路が1件、1人の合計3件、3人だった。
昨年同月間と比べ、高速国道では、発生件数が1件(33.3%)減、死者数が1人(33.3%)減、指定自動車専用道路は発生件数、死者数ともに増減ゼロ、合計では発生件数は1件(25.0%)減、死者数は1人(25.0%)減と減少した。

は2人増加、非着用も6人増加した。
また、非着用死者18人のうち11人(構成率61.1%)は運転中、7人(同38.9%)は同乗中によるもの。
日別死者数では、最も多かったのは29日(火)の13人だった。
死者数がゼロだった都道府県は、山形、茨城、富山、石川、福井、佐賀、大分、宮崎、鹿児島のみ。
飲酒運転による交通事故の発生件数は45件(うち死亡事故4件)で、昨年同月間と比べると、発生件数は56件減少、死亡事故も1件減少した。
75歳以上高齢運転者の死亡事故発生件数は12件で、昨年同月間と比べると5件増加している。
また、期間中の高速道路における交通死亡事故の発生状況をみると、高速国道が2件、2人、指定自動車専用道路が1件、1人の合計3件、3人だった。
昨年同月間と比べ、高速国道では、発生件数が1件(33.3%)減、死者数が1人(33.3%)減、指定自動車専用道路は発生件数、死者数ともに増減ゼロ、合計では発生件数は1件(25.0%)減、死者数は1人(25.0%)減と減少した。